



 x-rite  
InkFormulation6

最初のステップ

## 概要

概要.....	2
重要事項.....	3
ツールバーの説明.....	4
測定条件の設定.....	6
全般設定.....	6
表示設定.....	7
基礎データの読み込み.....	8
基本配合を作成.....	9
修正の配合計算.....	19
残インキの作成.....	24
残インキの配合.....	28
配合を手動で入力.....	32
新規配合フォルダの作成.....	35
配合名で検索.....	37
最少 $\Delta E^*$ で配合を検索.....	39
支持体の作成.....	43
データベースのバックアップ.....	46
データベースの修復.....	47
設定：全般.....	48
設定：配合計算.....	49
設定：表示.....	50
設定：外部計量器.....	51
設定：SPM.....	53
設定：通信設定.....	54
設定：ライブラリフォルダ.....	55
設定：プリンタの設定.....	56
設定：ワークフロー.....	57

## 重要事項

1. 本説明書では、InkFormulation 6の最も重要となる機能の概要を説明しています。
2. 本書のエクササイズを通して、主な機能をよりご理解いただくことを目的としています。
3. 本書のエクササイズは測定器なしで実行することができます。基礎データとして使用されるインキ色は新規インストール時にインストールされます。
4. 画像は本バージョンの全機能が使用可能なモデルに基づいて作成されています。インストールされているバージョンによっては、メニュー項目の記号が表示されていない場合もあります。本エクササイズでは、これらの特定の機能は使用されないため影響はありません。

商標

X-Rite ColorQuality™ および X-Rite InkFormulation™ は X-Rite, Incorporated の登録商標です。

Windows は、Microsoft Corporation の登録商標です。

Copyright 2010 by X-Rite®

All rights reserved. Duplicating, processing or translating beyond the scope of the copyright is expressly forbidden without previous written permission.

## ツールバーの説明



**基本配合**  
新規配合を作成します。



**補正配合**  
既存配合を調整します。



**配合のロード**  
既存配合を検索します。



**保存**  
現在の配合を保存します。



**分光曲線**  
配合を多様なグラフィックディスプレイで表示します。



**配合結果の印刷**  
現在ロードされている配合を印刷します。



**外部計量器に送信**  
現在読み込まれている配合を外部計量器に送信します。



**E 配合**  
配合値を E メールで送信します。



### SPM

測定装置に接続します。



### ColorQuality に切り替え

ColorQuality をロードするか、または ColorQuality と InkFormulation のアプリケーションを切り替えます。

## 測定条件の設定

### 全般設定

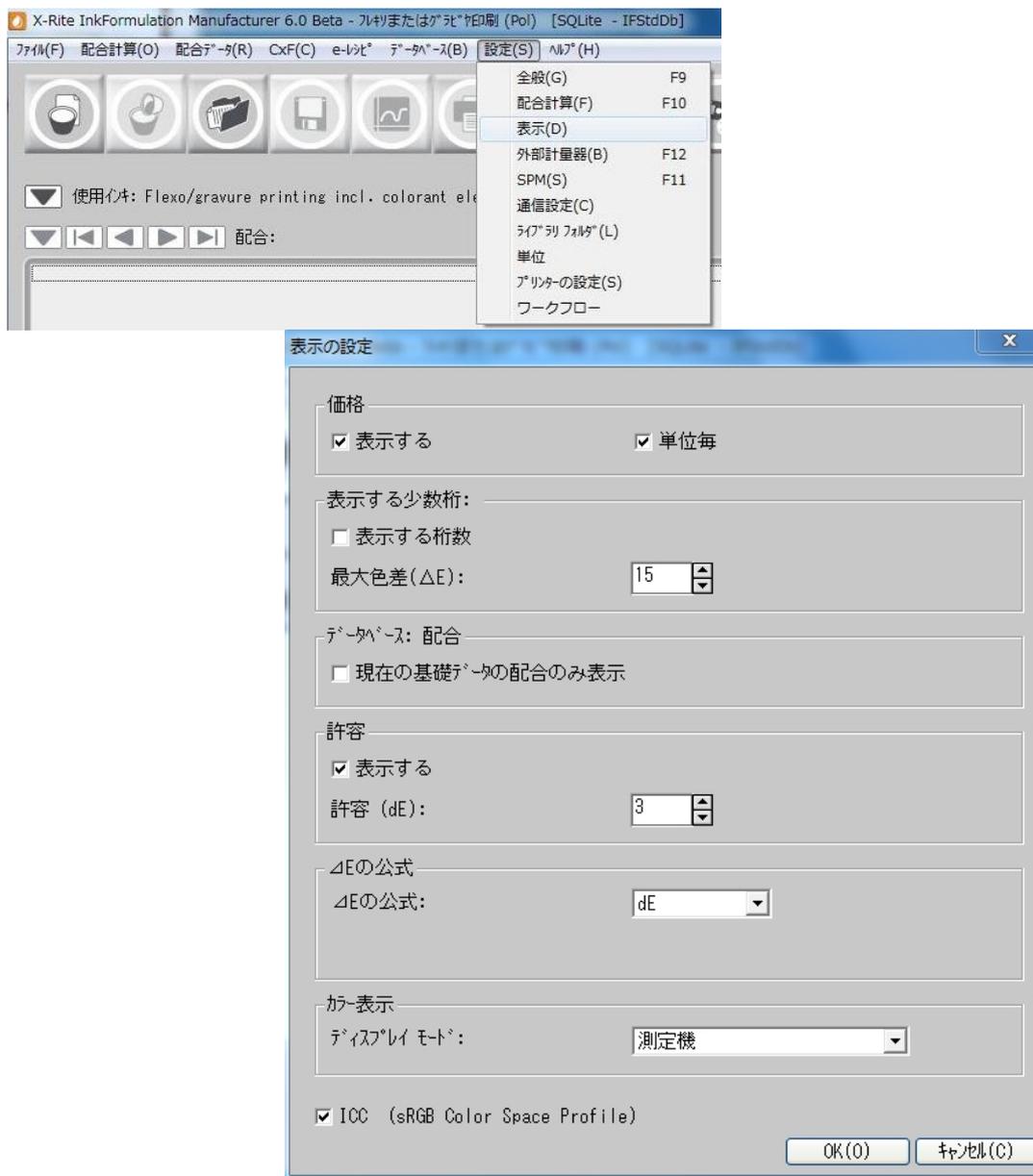
1. [設定] → [全般] メニューをクリックします。
2. [全般] ウィンドウで既定の測定設定を確認してください。
3. [OK] をクリックして終了します。



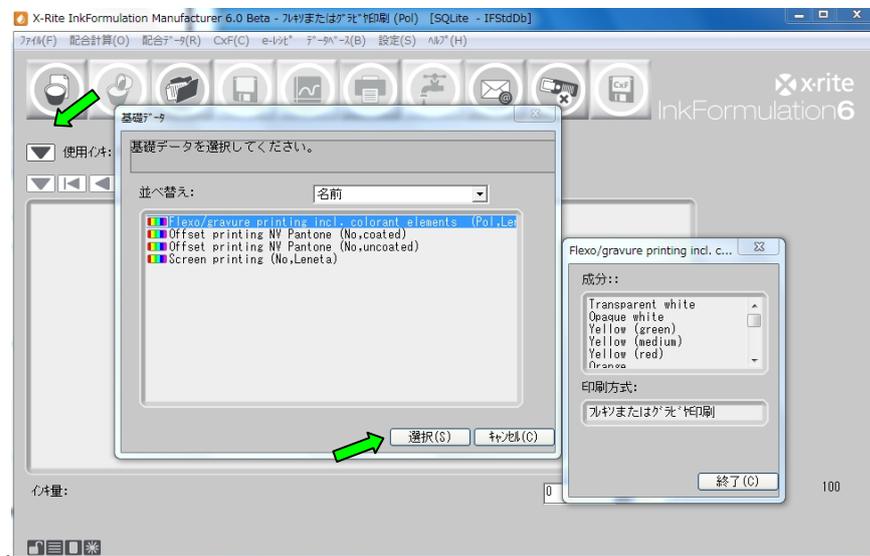
注記：言語を変更した後は、InkFormulation を必ず再起動してください。

## 表示設定

1. [設定] → [表示] メニューをクリックします。
2. [表示設定] ウィンドウで既定の設定を確認してください。
3. [OK] をクリックして終了します。



## 基礎データの読み込み

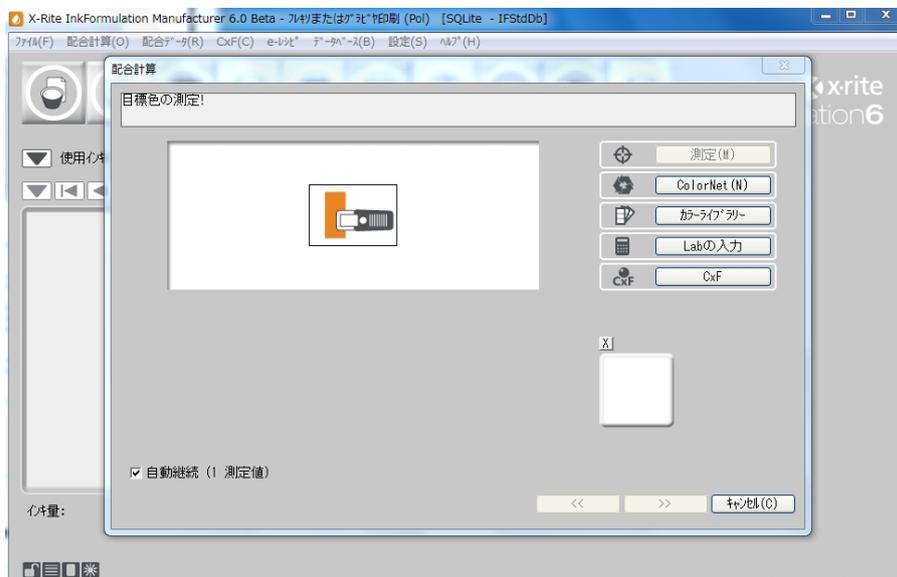


1. [基礎データ] 側の下向き矢印をクリックします。
2. 開いたデータベースから [Flexo/Gravure incl. colorant elements (Pol, Leneta)] を選択し、[選択] をクリックします。

選択された基礎データ名がメインウィンドウに表示されます。

注記： [基礎データ] は基本色材の詳細情報が含まれるデータベースを意味します。

## 基本配合を作成



1. [配合計算 → 基本的な配合] アイコンをクリックします。 
2. はじめに目標色を定義する必要があります。カラーを測定せずに、[ColorNet]、[カラーライブラリー]、[Lab の入力] または [CxF] からカラーデータを読み込むことができます。

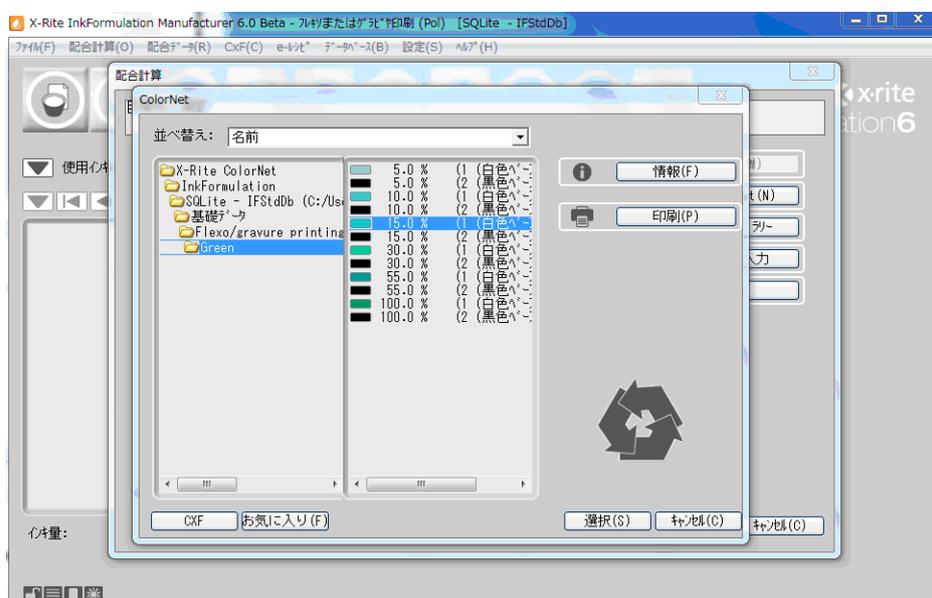
**ColorNet** はエックスライト社のさまざまなアプリケーション（InkFormulation、ColorQuality、分光測色計）間をリンクします。保存された色は ColorNet で交換することが可能です。

色彩値として指定されたカラーデータを [Lab の入力] で入力することができます。しかし、この目標色の指定では、分光曲線分析が InkFormulation に表示されず、計算されたカラーデータのみが表示されます。

[カラーライブラリ] では、HKS または Pantone 色を支持体（コート、上質、マット）と照明条件に応じて選択できます。（このボタンはカラーガイドライブラリが提供されていることを前提とします。）

**CxF** は、転送される色の色彩値や分光値など、全ての重要な情報含むカラーデータ交換形式です。

このエクササイズでは、ColorNet から既存色を読み込みます。

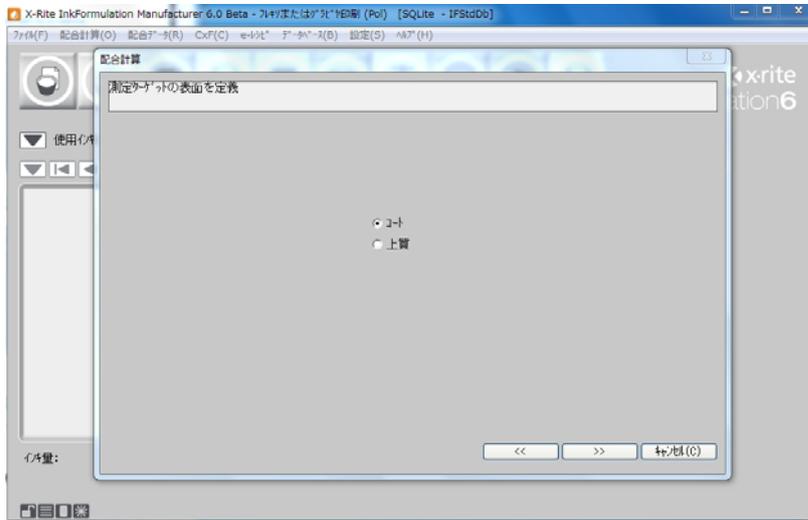


3. [InkFormulation] → [基礎データ] → [Flexo/gravure printing incl. colorants elements (D65, Leneta)] → [Green] → [15.0% green] を選択します。
4. [選択] をクリックし、目標色として読み込みます。

メインフォルダ「X-Rite ColorNet」をダブルクリックすると、ColorNet が使用可能な全てのアプリケーションが表示されます。

注記：ColorNet の構成は Windows エクスプローラに似ています。フォルダをダブルクリックすると、その下のフォルダが開きます。表示されないフォルダがあれば、上部のフォルダをダブルクリックしてください。

5. 次に目標色の支持体タイプを定義します。このエクササイズでは [コート] を選択し、[次へ (>>)] をクリックします。



6. 次に、配合の支持体が表示されます。この例には [基礎データで使用した支持体] を選択し、[次へ (>>)] をクリックします。



注記：プログラムは配合計算を支持体色によって補正する必要があるため、正しい支持体情報の入力が重要となります。

7. これでコートインキ膜厚を変更することができます。既定の 100%を使用し、[次へ (>>)] をクリックします。



注記：この設定はメニュー [設定] → [配合計算] で実行できます。配合画面にこの設定項目が表示されています。配合画面への表示はオプションとなっており、メニューから無効に設定することが可能です。

次のウィンドウでアプリケーションを選択します。

注記：このウィンドウは、現基礎データに 1 つ以上の印刷方式（プロセス）を定義した場合のみに表示されます。

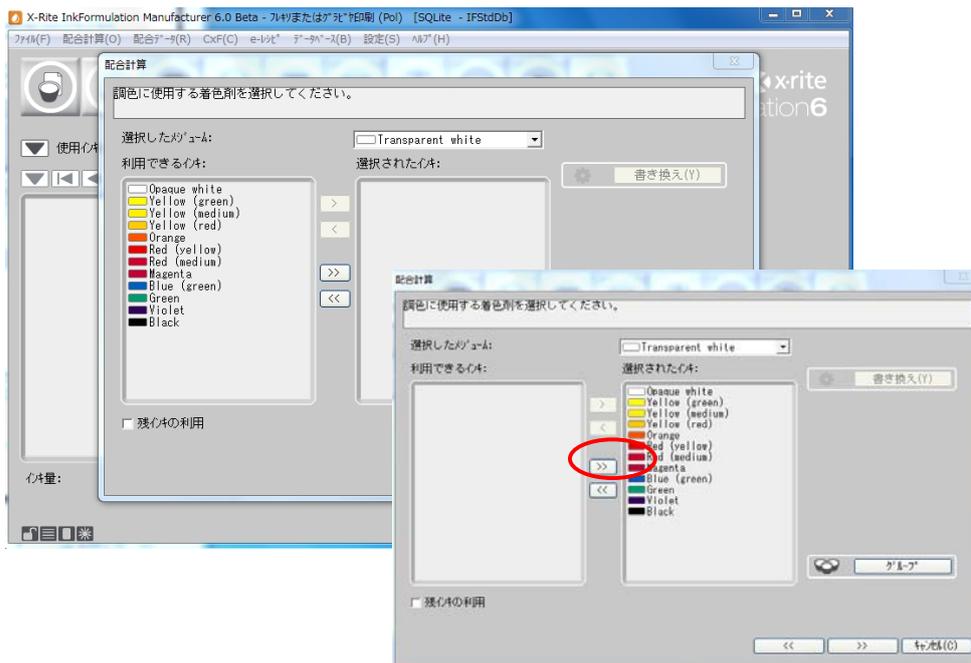
最初のボックス（すでに定義されたアプリケーション）の組み合わせを選択するか、または独自で作成してください。

8. 組み合わせを 1 つ選択し、[次へ (>>)] をクリックして次のステップに進みます。



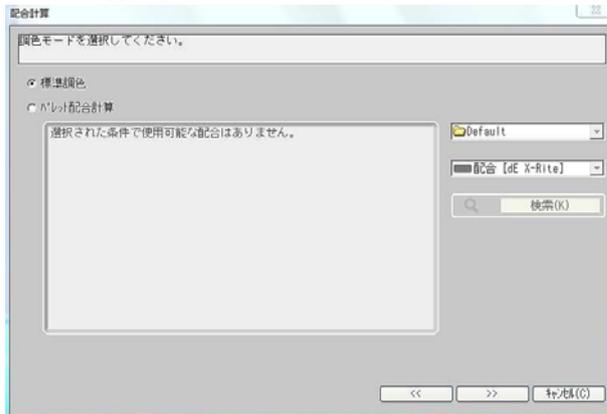
カラーオプションのウィンドウが表示されます。現在読み込まれている基礎データ (Flexo/gravure printing incl. Colorants elements) で使用可能な基本色がウィンドウ左側に表示されます。

9. 二重矢印 (>>) をクリックし、全色を [利用可能なインキ] から [選択されたインキ] リストに移動します。これで [選択されたインキ] リストの色で配合が可能になります。下部の [次へ (>>)] をクリックし、続行します。



注記：全色を選択する必要はありません。単色を選択する場合は、ダブルクリックまたはハイライト表示し、矢印右ボタン (>) をクリックして選択します。色を削除するには、[選択されたインキ] リストから対象色をハイライト表示し、左矢印ボタン (<) をクリックします。配合に使用可能な基本色は、プログラムによって制限されている場合があります。

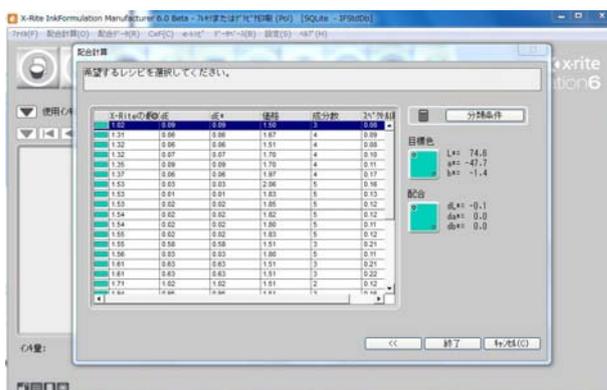
10. 次に調色モードを設定します。標準またはパレット調色を選択することができます。使用可能なパレット調色はボックスに自動的に表示されます。このウィンドウはオプションとなっています。パレット調色を使用しない場合は、この手順が無効に設定されます。標準オプションを選択してください。



11. これで、選択された分類条件を満たす計算配合が表示されます：

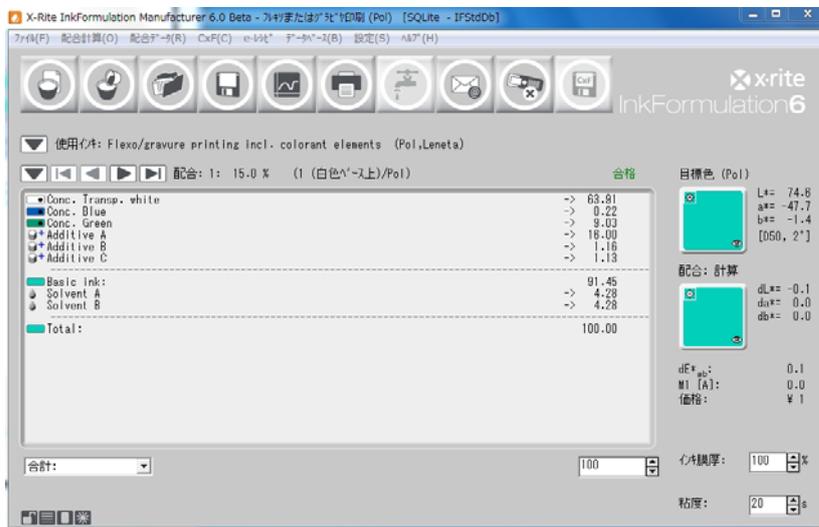
- 現在の $\Delta E$ 計算式
- $\Delta E2000$
- $\Delta E$  CIELab
- 価格
- 成分
- X-Riteの最適条件

12. 希望条件をクリックします。全ての配合が自動的に分類されます。  
 13. 最初の配合をクリックしてから、[終了] をクリックして次のステップに進みます。



注記：弊社では [X-Riteの最適条件] を推奨しています。 $\Delta E$ 、成分数、メタメリズムなど異なる条件の組み合わせで重要度の順に表示されています。

配合計算結果はメインウィンドウに表示されます。

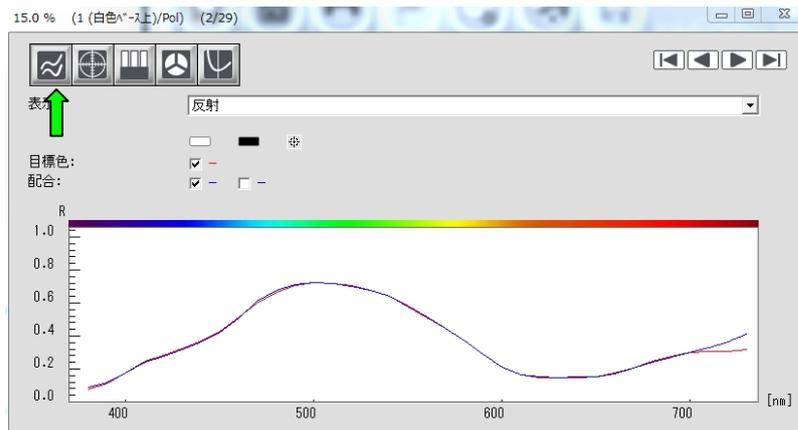


14. 最初に表示される配合を使用する必要はありません。最初の3~4の配合は性能を問わず差がほとんどないため、通常は2つ目または3つ目でも使用可能です。前後の矢印を使用して選択します。

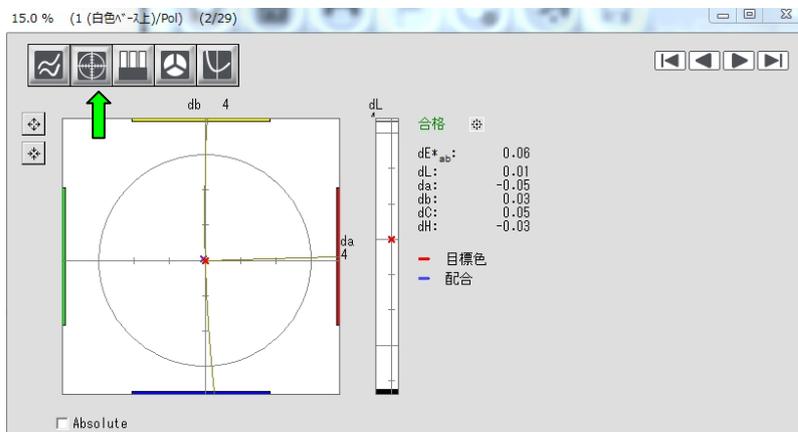


15. メインウィンドウの「分光曲線」アイコン  をクリックします。目標色および配合のさまざまな比較分析が表示されます。

### 分光曲線の比較：

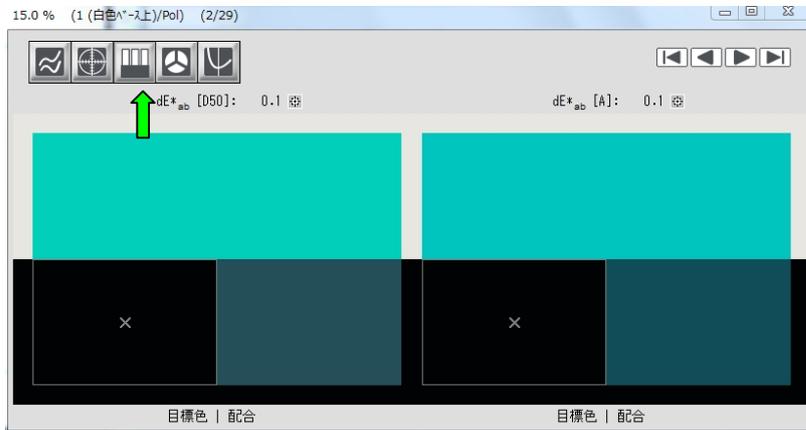


### CIELab 色度図：



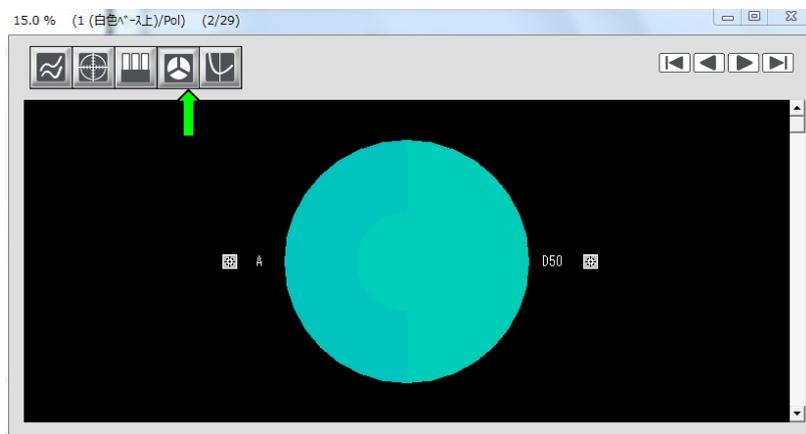
中心にある赤の「x」は目標色を表示し、青の「x」は配合色を示します。

3つの照明に対する白色ベース上と黒色ベース上の目標色および配合色の比較：

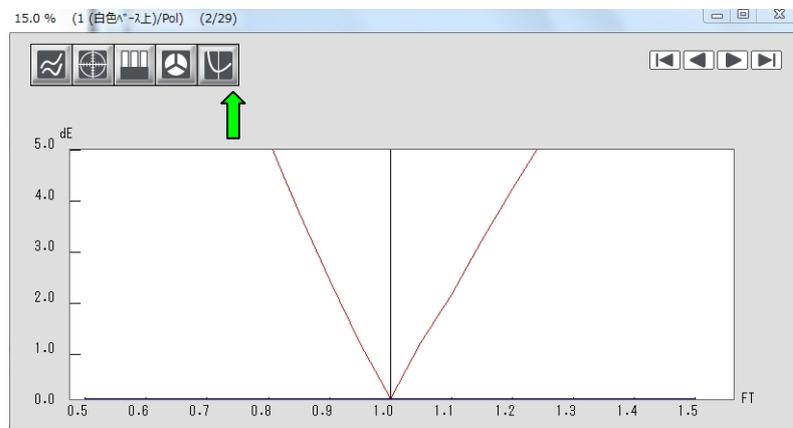


十分に異なる色度差 $\Delta E$ を持つ3つの異なる照明下（例：D65、D50、A）におけるカラーのビジュアル印象を提供します。

異なる照明テクニックにおける配合結果の表示：



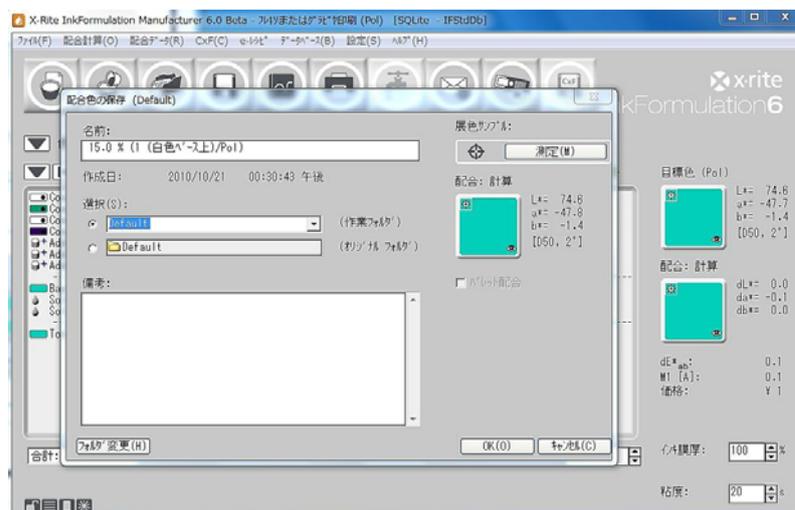
## インキ膜厚を変更した場合の反応表示：



注記：ウィンドウの位置は固定されていません。ウィンドウ上部のタイトルバーでマウス左側のボタンを押しながら移動することができます。マウスボタンを押しながらウィンドウの片端を引っ張ると、サイズを大小に調整することができます。

配合の保存：

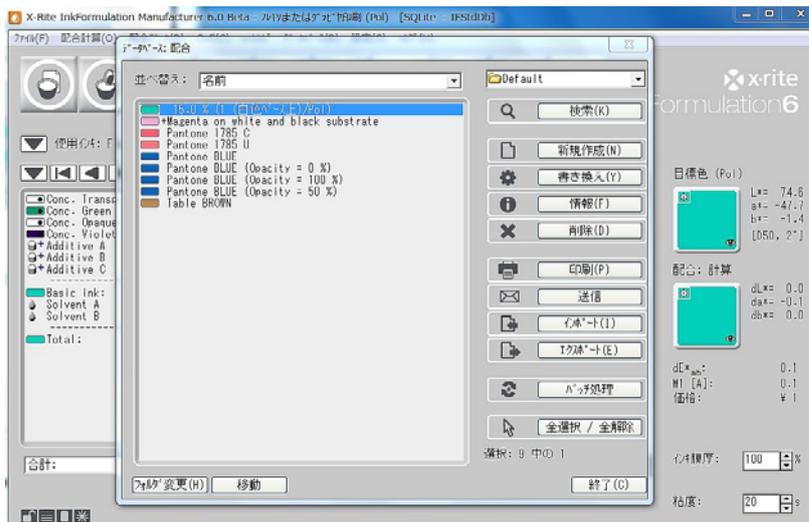
16. [配合] → [保存] メニューをクリックします。
17. ウィンドウの配合名に [15% green] を入力し、[OK] をクリックして配合を保存します。



これで計算手順が完了し、配合が保存されます。これで印刷および配合の準備が完了です。

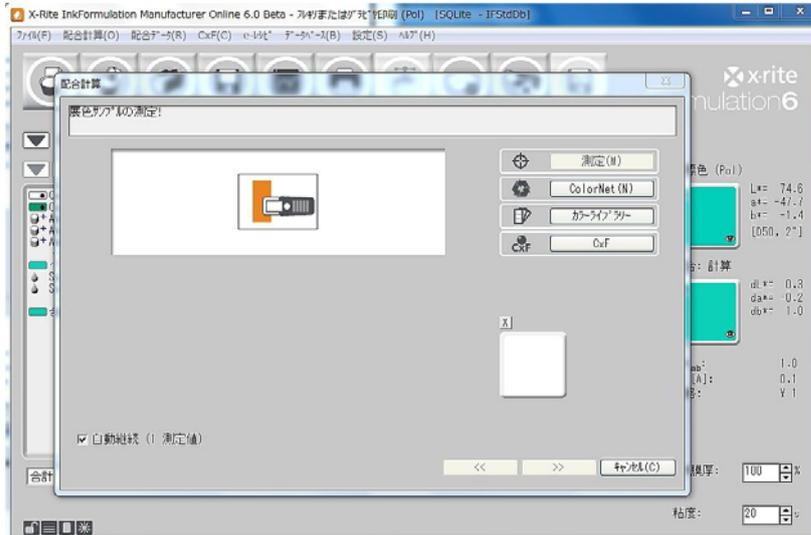
## 修正の配合計算

1. 保存した [Green] を読み込みます。[配合] → [取得] メニューをクリックします。
2. 開いたウィンドウで [15% green] をダブルクリックまたはハイライト表示し、[選択] をクリックしてください。

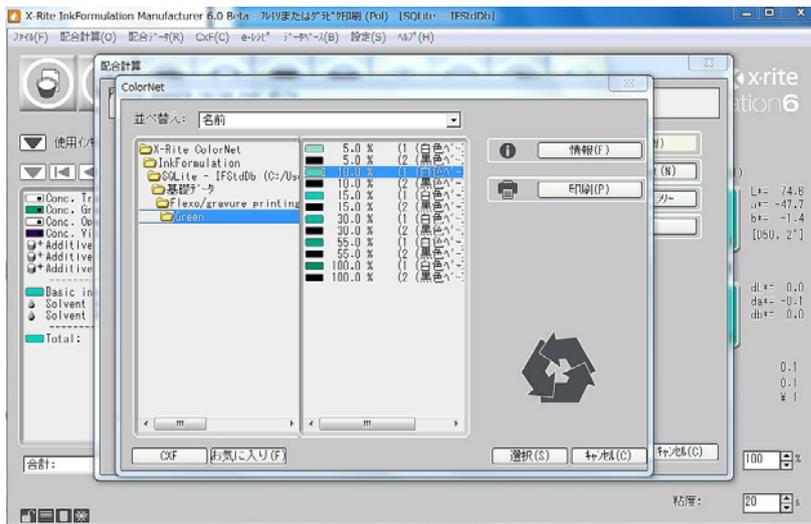


注記： InkFormulation では 2 つの方法で色を選択できます。配合名をハイライト表示して [選択] をクリックするか、もしくは一致する配合名をダブルクリックします。

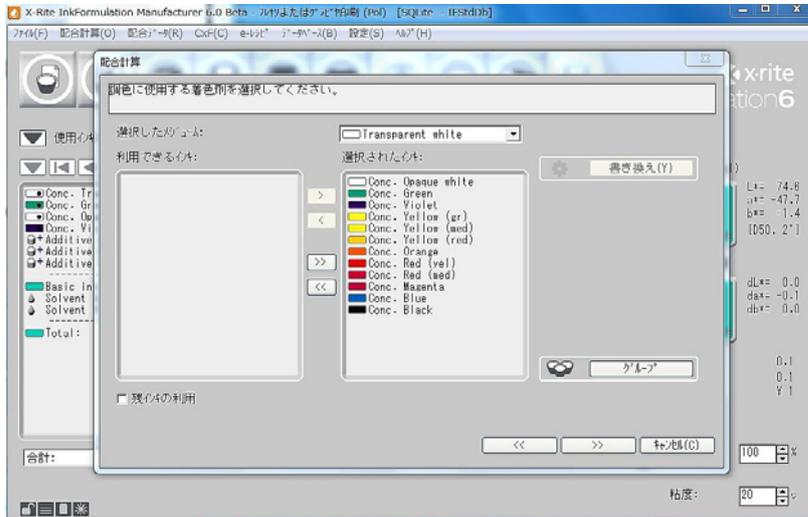
配合計算を読み込んだ後、[配合計算 → 補正配合] をクリックします。開いたウィンドウで、作成した展色サンプルを入力します。実際の使用においては、配合および印刷されたサンプルを測定します。本書のエクササイズでは、ColorNet から色を選択します。[ColorNet] をクリックしてください。



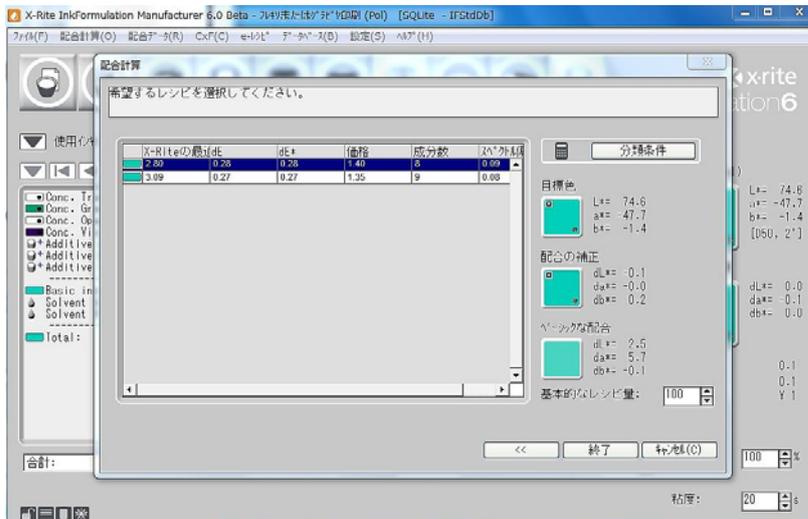
3. ColorNet で [InkFormulation] → [基礎データ] → [Flexo/Gravure incl. colorant elements (Pol, Leneta)] → [Green] → [10% green] を選択します。[選択] をクリックします。



- 次のウィンドウに全色が選択されたカラー選択ウィンドウが表示されます。  
[次へ (>>)] をクリックし、続行します。

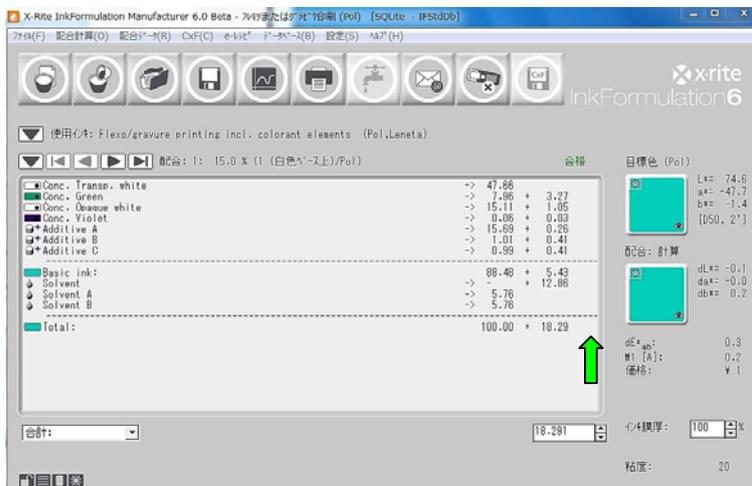


- インキの選択ウィンドウが表示された後、ソフトウェアは全ての可能な修正を計算し、分類条件に応じて表示します。



- [X-Rite の最適条件] の最初の配合をクリックしてから、[終了] をクリックします。

補正配合が並んで配置されます。



メインウィンドウで、補正量がオリジナル量の横、右側の 2 列目に表示されます。

基本・調整量の追加は [追加量加算] で行います。

6. [追加量加算] をクリックします。

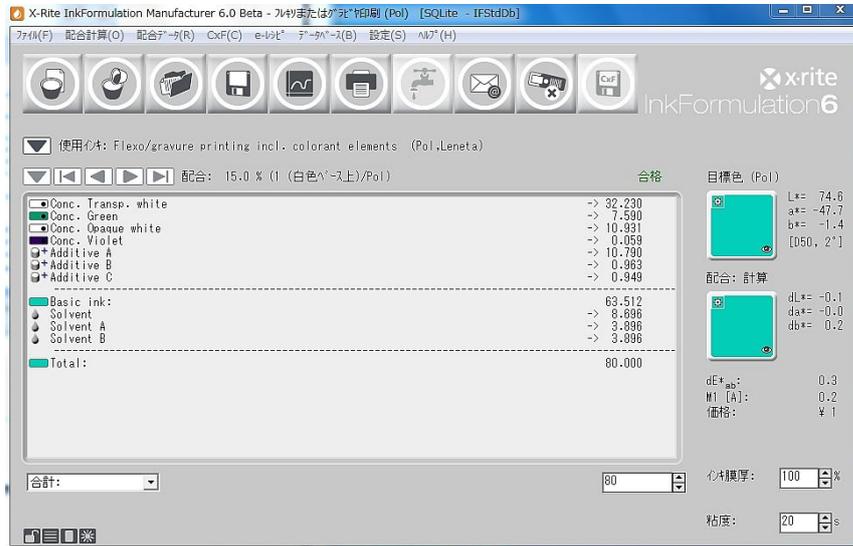
これは 2 つの方法で実行できます。

- [配合：追加量加算] メニューをクリックする
- 配合ウィンドウ間の右マウスボタンをクリックし [追加量加算] を選択する



注記：ポップアップウィンドウでは [追加量加算] の他にいくつかの機能を選択することができます。

補正の追加後、インキ量は 100 になります。これは [補正配合] ウィンドウで設定した値と同じです。

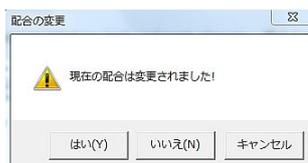


注記：補正は 2 つの方法で行います：

- 目的の色は補正量で再配合します。この場合、上記の手順を選択する必要があります。または、
- すでに存在する配合されたインキ色を変更します。この場合、別途に表示された補正量で配合が示されます。この補正を行うには、[配合の補正] ウィンドウで [総インキ量] の代わりに [現在のインキ量] を選択してください。プルーフに使用された量を総インキ量から差し引きます。

例：配合：100g、プルーフの消費量 15g、→ [現在のインキ量]：85g

- [保存] アイコン  をクリックし、補正配合を保存します。
- 開いたウィンドウで配合名を [15% green] のままにし、[OK] をクリックします。
- この名前はすでに使用されているという警告メッセージが表示されます。[はい] を選択すると、オリジナルの配合が補正配合で置き換えられます。

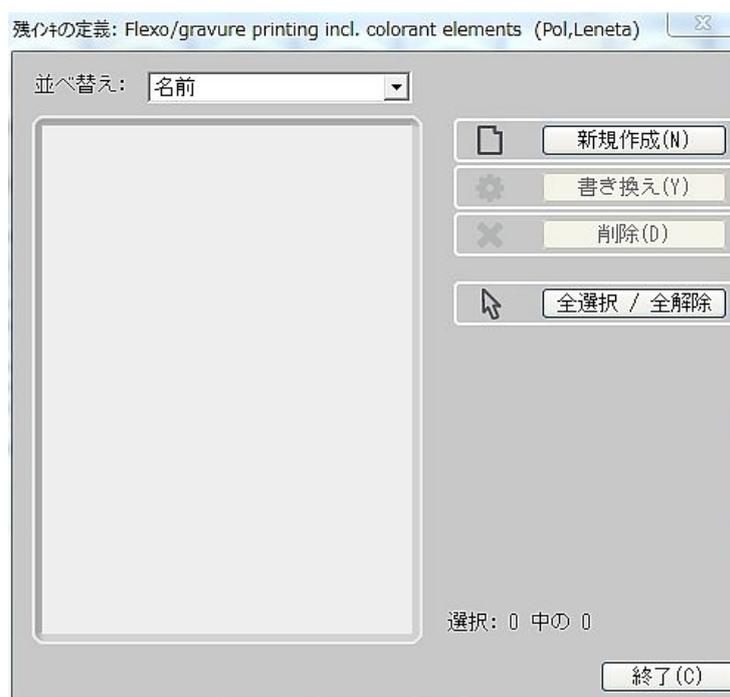


## 残インキの作成

### 1. メニュー [データベース：残インキ]



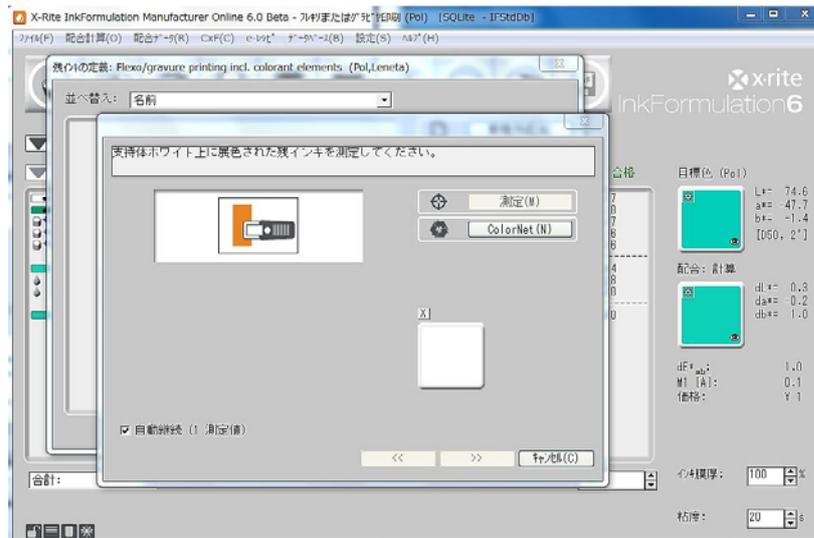
### 2. [残インキの定義] ウィンドウから [新規作成] をクリックします。



3. このステップでは、残インキの定義が要求されます。

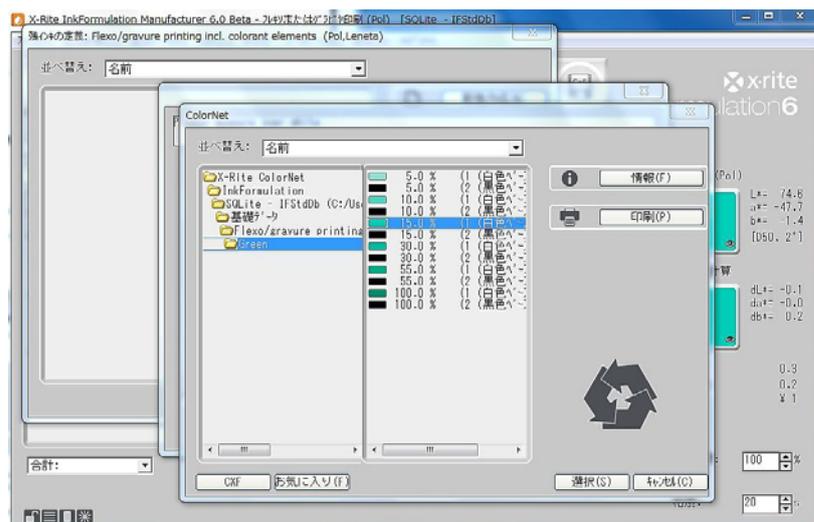
実際の使用においては、残インキを測定します。本エクササイズでは ColorNet から既存色を読み込みます。

4. [ColorNet] をクリックします。

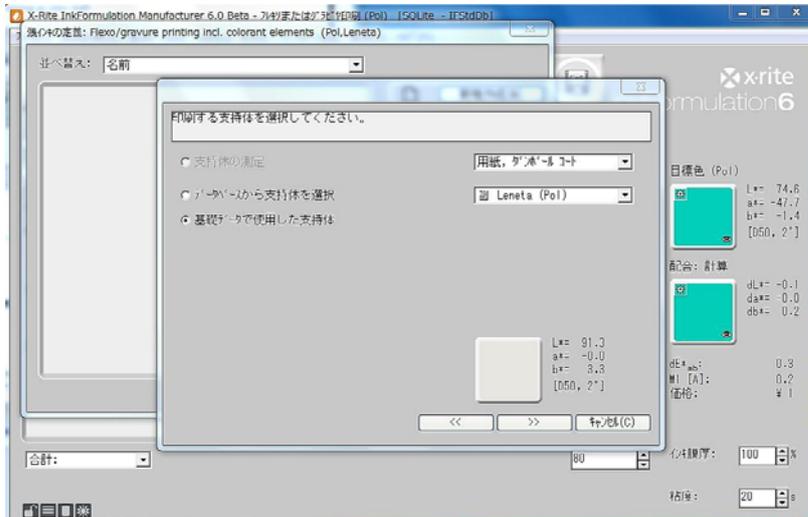


5. [InkFormulation] → [基礎データ] → [Flexo/Gravure incl. colorant elements (Pol, Leneta)"] → [Green] → [1.0% Green] から目標色 [15.0% Green] を選択します。

6. [選択] をクリックし、目標色として読み込みます。



7. 次の手順で支持体を定義してください。[基礎データで使用した支持体] を選択し、[次へ (>>)] をクリックします。

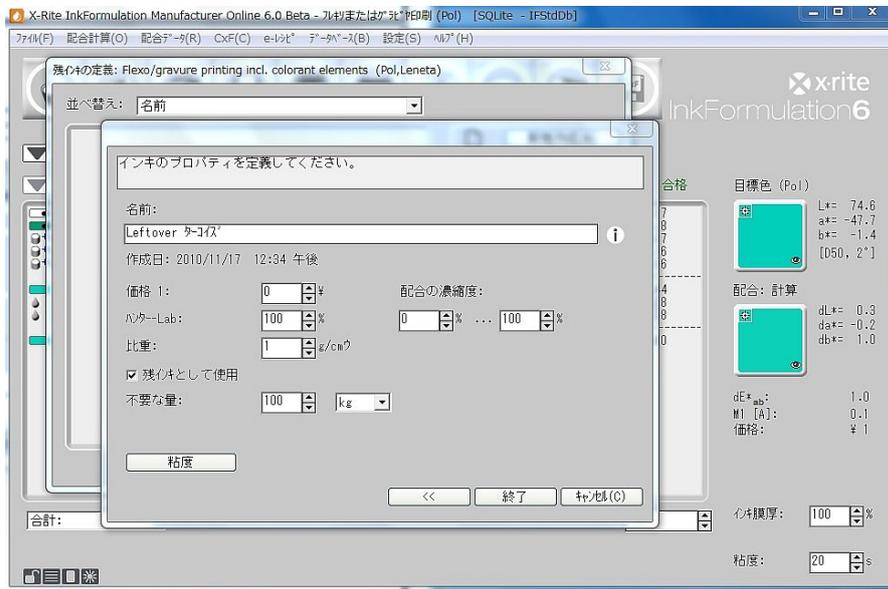


8. インキ膜厚は 100%です。[次へ (>>)] をクリックし、続行します。

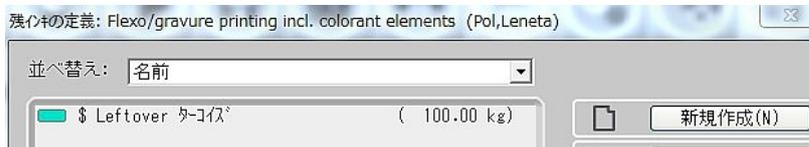


注記：実際の使用においては支持体を測定します。これは使用する支持体が基礎データの支持体と異なるためです。InkFormulation では、支持体色が正しく補正されるよう正確な支持体情報を取得することが極めて重要です。

9. 指定フィールドに名前 [Leftover Green] を入力します。
10. [利用可能な量] に [100] および単位には [kg] を入力してください。
11. [終了] をクリックし、ウィンドウを閉じます。



12. 残インキがデータベースに保存されます。[終了] をクリックしてプロセスを終了します。



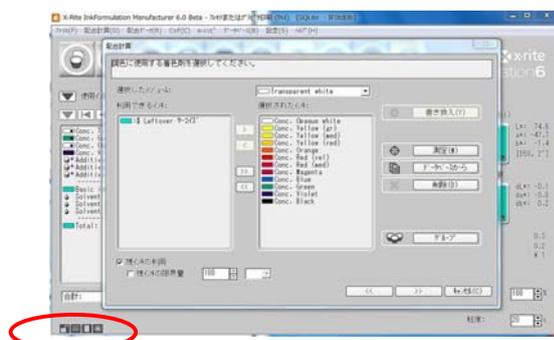
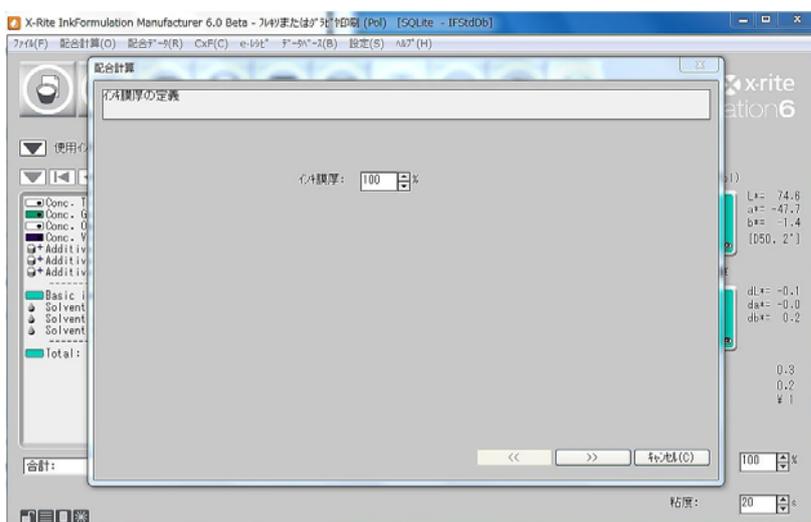
**注記：**残インキを入力する方法はここに表記される手順だけではありません。より詳しい情報はオンラインヘルプまたはユーザーガイドをご参照ください。

## 残インキの配合

以前に定義された残インキを含めて [15.0% Green] を再計算します。

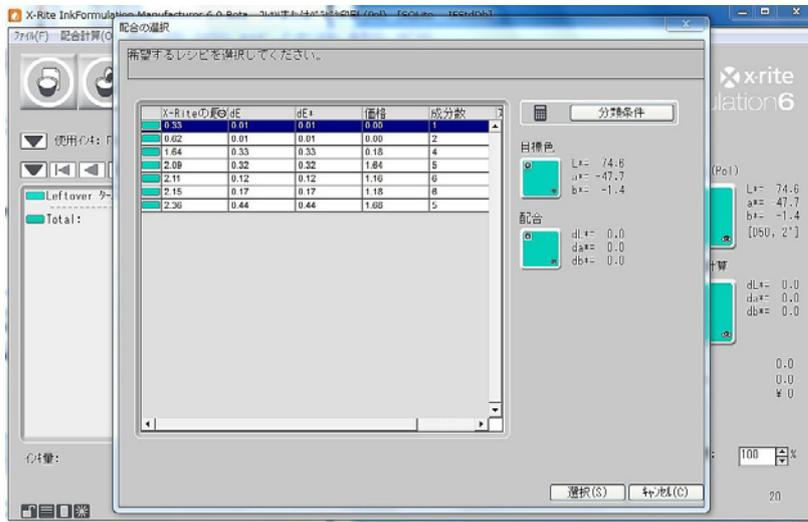
1. 保存された [15.0% Green] ([配合] → [取得]) をロードし、再計算 ([メニュー] → [配合] → [再計算]) します。

調色ワークフロー内では、残インキの使用が [インキの選択] ウィンドウから直接有効になります。

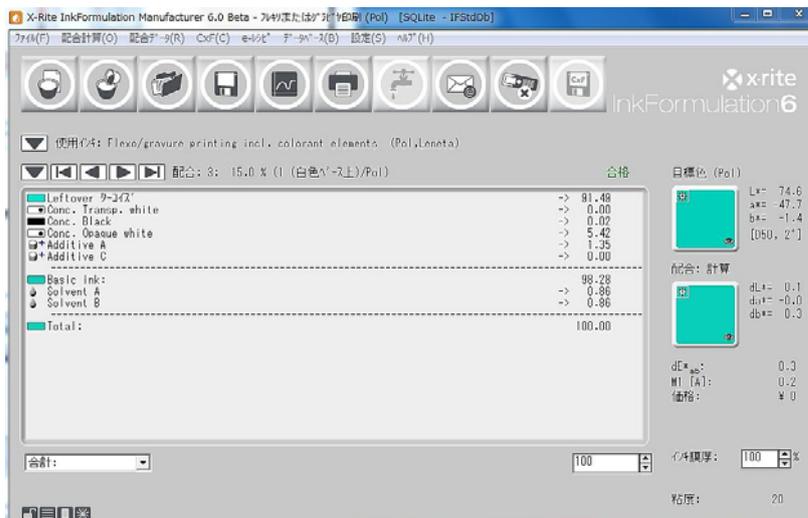


注記：目標色と支持体が全く編集されず、配合プロセスのみを再修正する場合、常に [再計算] を使用することができます。

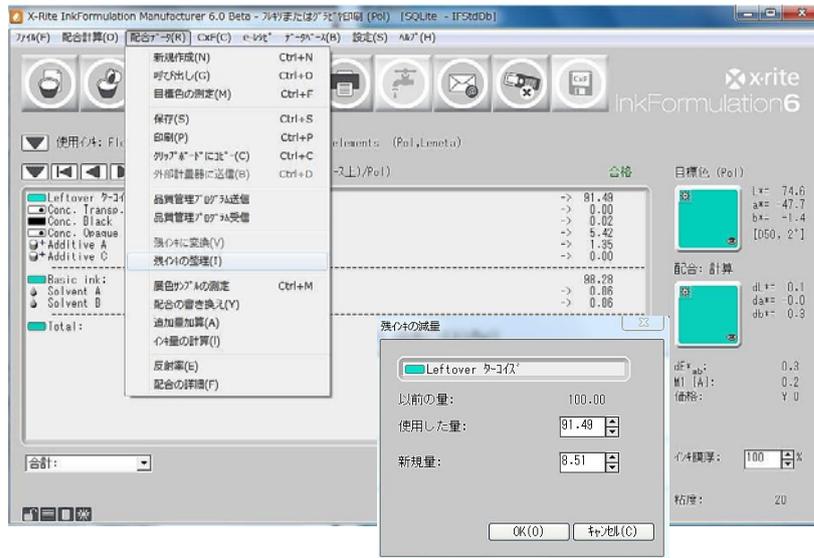
2. ΔE2000 条件に対する最初の配合を選択し、[終了] をクリックします。



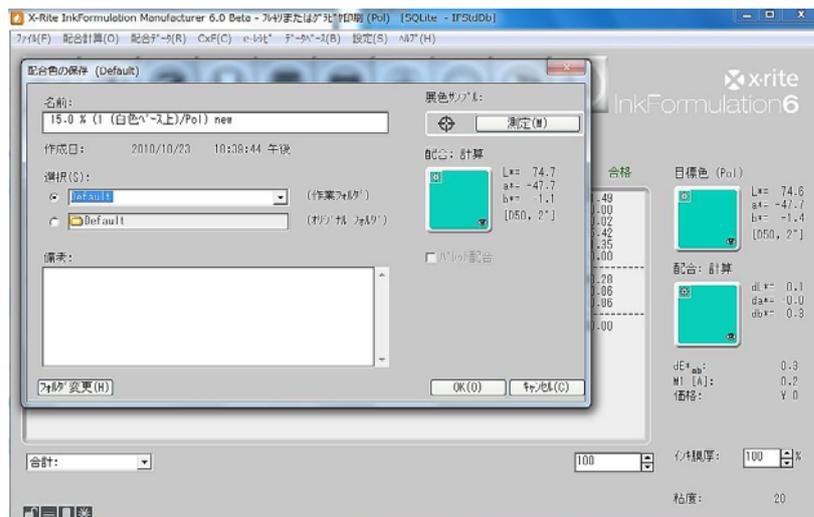
3. 最大量の残インキが加えられています。これは、この Green が目標色と良く一致しているためです。



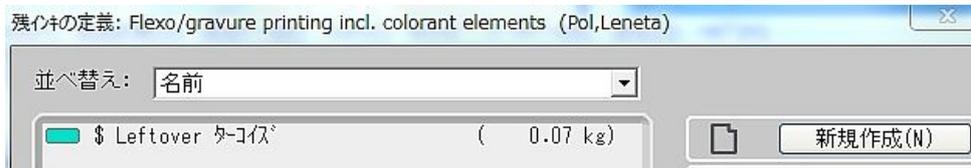
- InkFormulation の残インキの使用は半自動のインキ量管理機能を含みます。これは配合後に使用量を手動で承諾する必要があることを意味します。この変更を承諾するには、[配合]メニュー項目から[残インキの整理]を選択します。
- [残インキの整理] ウィンドウで、配合値に対する使用の適用前/適用後のインキ量が表示されます。[OK] をクリックし、変更を承諾します。



- 配合を保存するには、[配合]メニュー項目から[保存]を選択します。指定フィールドに「残インキによる 15.0%Green」を入力し、[OK] をクリックします。



7. 残インキデータベースのウィンドウを再度開きます。（メニュー：[データベース] → [残インキ]）オリジナルの [100] が配合の使用量によって低減し、新しく [0.07] になっています。



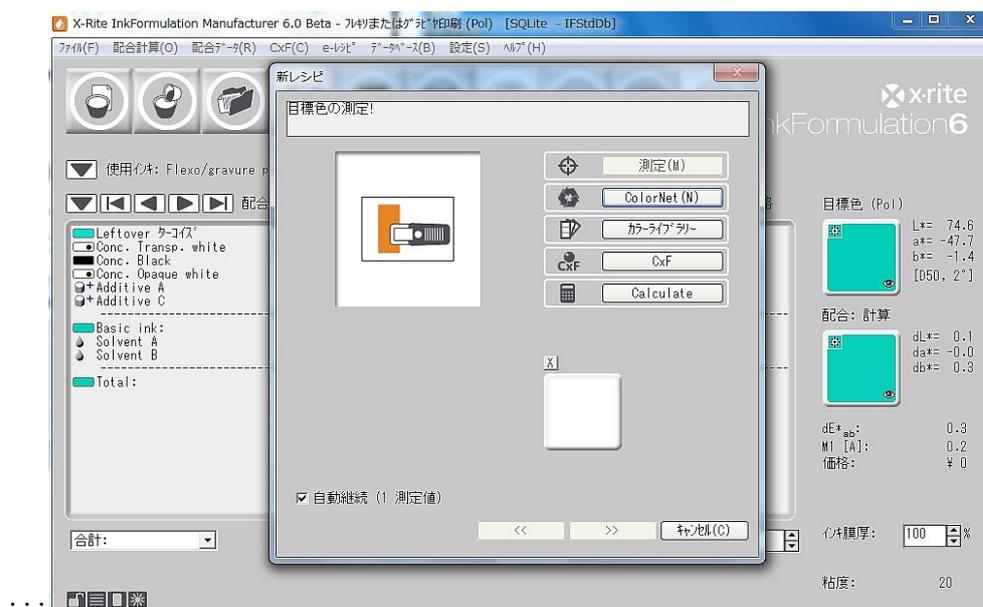
注記：インキ量の管理は必須ではなくオプションです。インキ量を管理しない場合でも全く問題はありません。残インキ（配合に使用）は必要量が使用可能であることをユーザーが管理しなければなりません。

8. 残インキ利用の配合が完了です。[終了] をクリックして終了します。

## 配合を手動で入力

この機能を使用して、InkFormulation に既存の配合を作成します。

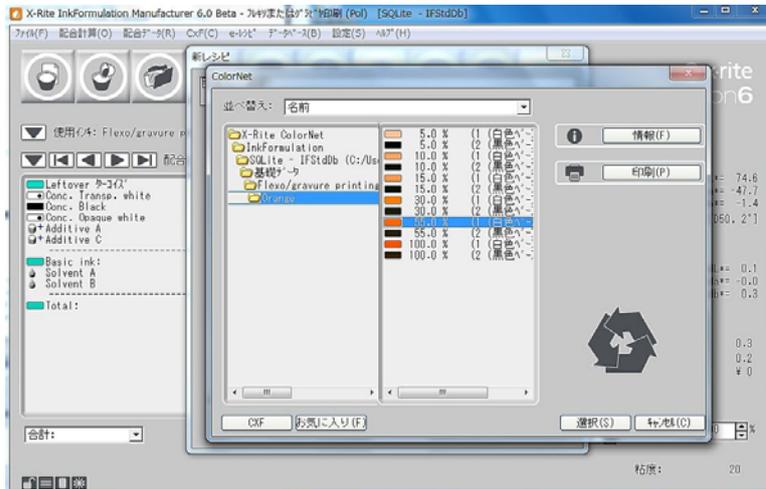
1. メニュー **【配合：新規作成】**。
2. 実際の使用では、配合のプールのみが測定されます。本書の例では、ColorNet から色を読み込みます。[新配合] ウィンドウから **【ColorNet】** をクリックします。



注記：本書のエクササイズは既存のプールに基づいています。

配合のみが使用可能であれば、メニュー **【配合】** → **【新規】** → **【計算】** から入力できます。配合色は InkFormulation によって計算されます。

3. [InkFormulation] → [デフォルト] → [基礎データ] → [Flexo/gravure printing incl. colorants elements (D65, Leneta)] から、色材濃度が [55.0% Orange] を選択します。
4. [選択] をクリックし、配合する色として読み込みます。



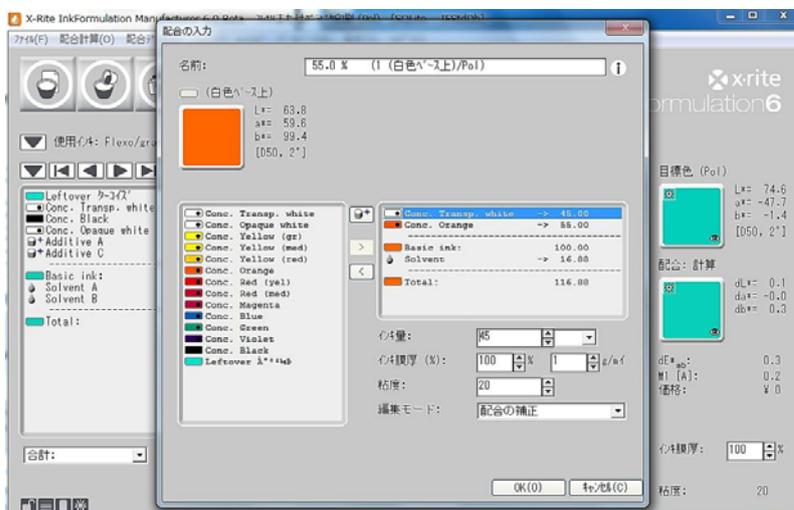
5. この例には [現基礎データの支持体] を選択してください。[次へ (>>)] をクリックし、続行します。



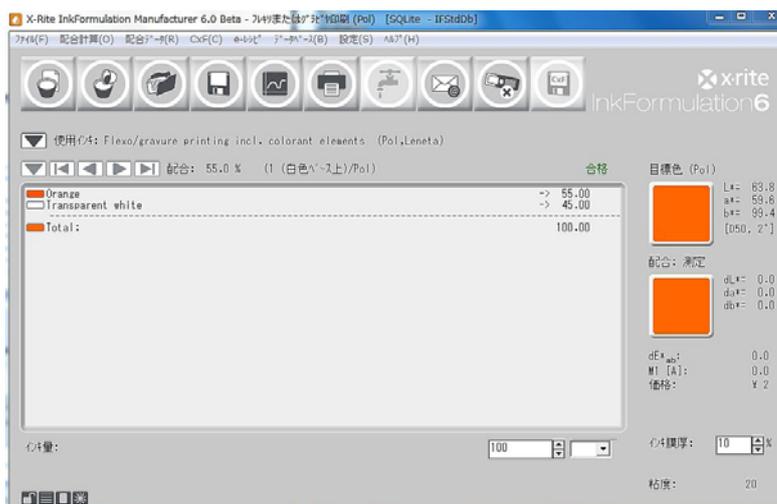
注記：実際の使用においては、配合が印刷されたオリジナルの支持体を測定することが大変重要です。

[配合の入力] ウィンドウの右上にある [配合：測定] にカラーデータと一致するカラーシェードが表示されます。

6. 色に [配合 Orange] と名前を付けます。
7. 左のリストで、使用可能な [Orange] の基礎データをダブルクリックしてください。
8. [インキ量] フィールドに [55] を入力します。
9. 左のリストで、[メジューム] をダブルクリックしてください。配合ウィンドウ右側で基礎データがメジュームに変わります。
10. [インキ量] フィールドに [45] を入力します。
11. 配合が完了しました。[終了] をクリックし、ウィンドウを閉じます。



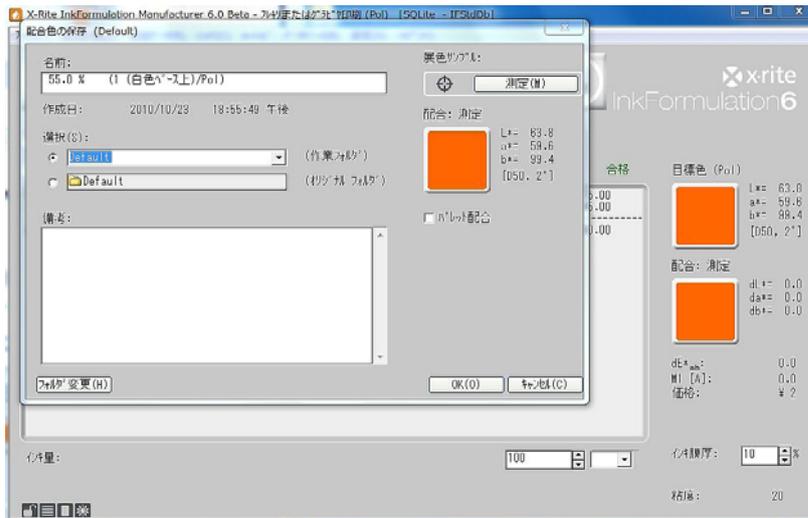
配合はメインウィンドウに表示されます。



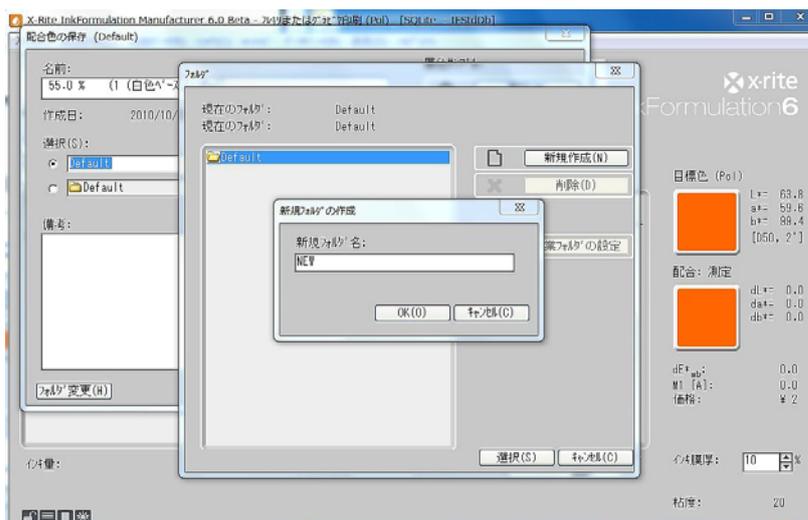
## 新規配合フォルダの作成

作成したばかりの配合に新規配合フォルダを作成する必要があります。

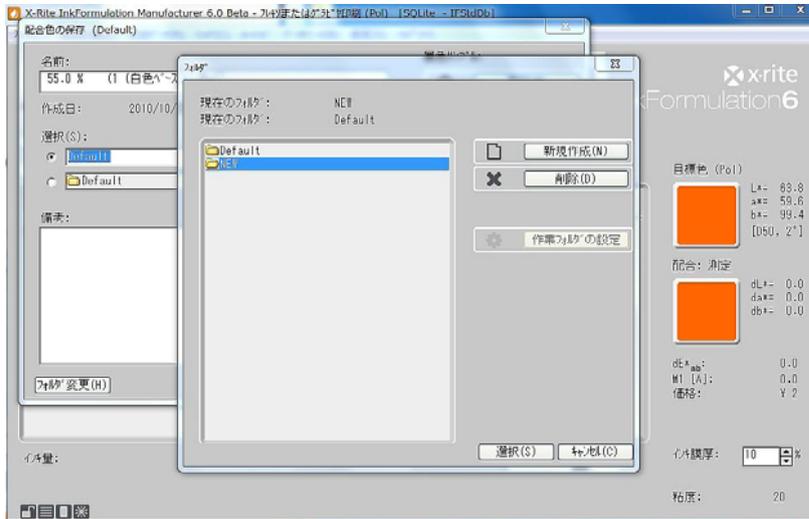
1. [保存] アイコン  をクリックするか、または [配合] および [保存] メニューを選択します。
2. [配合色の保存] ウィンドウから [フォルダ] をクリックします。



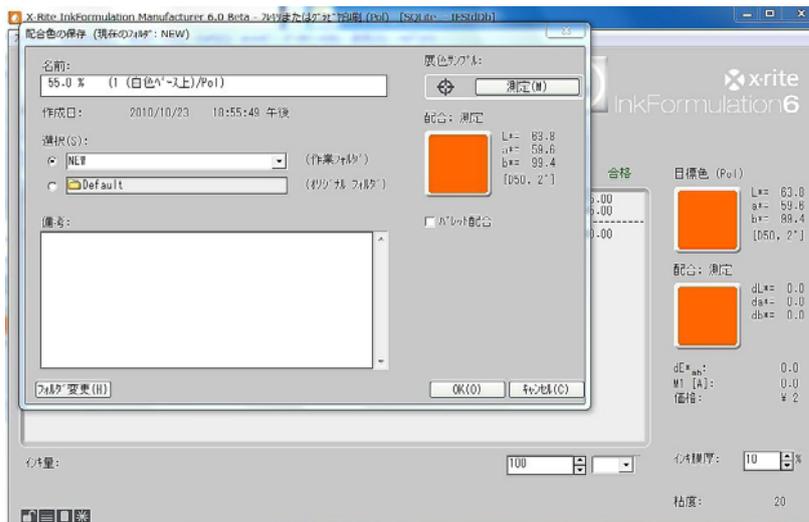
3. [フォルダ] ウィンドウから [新規作成] をクリックします。
4. 新規フォルダ名フィールドに「テスト配合フォルダ」を入力し、[OK] をクリックします。



5. [フォルダ] ウィンドウで [テスト配合フォルダ] をハイライト表示し、[選択] をクリックします。



6. [OK] をクリックし、配合を指定フォルダに保存します。



## 配合名で検索

配合を検索する際に便利です。

1. [配合] メニューをクリックします。[データベース：配合] ウィンドウが表示されます。
2. 一番最初に作成した [Orange] を検索します。[検索] をクリックします。



3. 検索基準ウィンドウで、指定フィールドに [Orange] を入力してください。配合フォルダを [Default] として表記します。[OK] をクリックします。



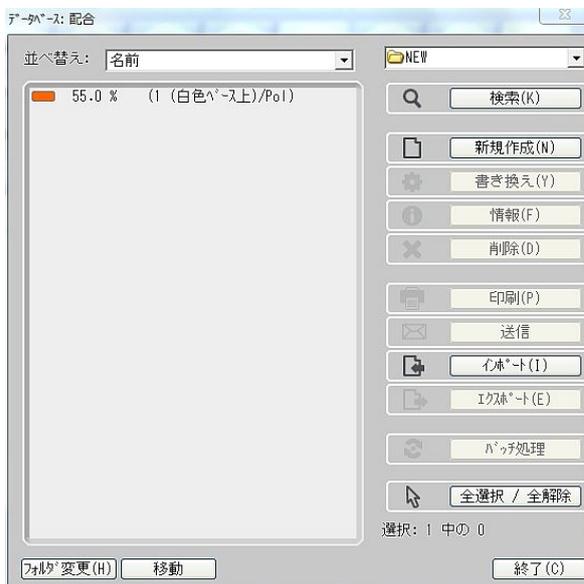
注記：検索条件を絞るためには、特定の日時や期間を入力することができます。

4. ウィンドウに配合は見つかりません。下部の [フォルダ] から [テスト] を選択するか、または右のリストから [テスト] を選択します。



[Brown] の名前の 2 色がリストに表示されます。

5. [終了] をクリックし、色を選択せずにウィンドウを閉じます。

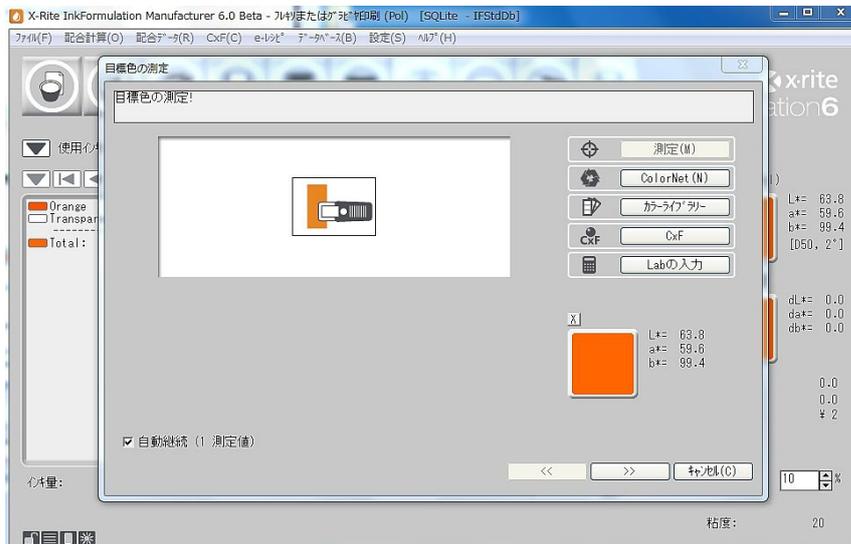


注記： 名前に「Brown」を含む全ての配合が表示されます。

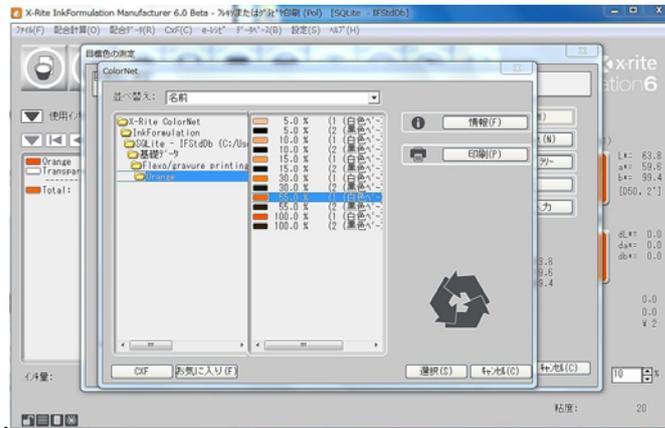
## 最少 $\Delta E^*$ で配合を検索

配合を作成する前によく似た配合を検索する場合に使用します。

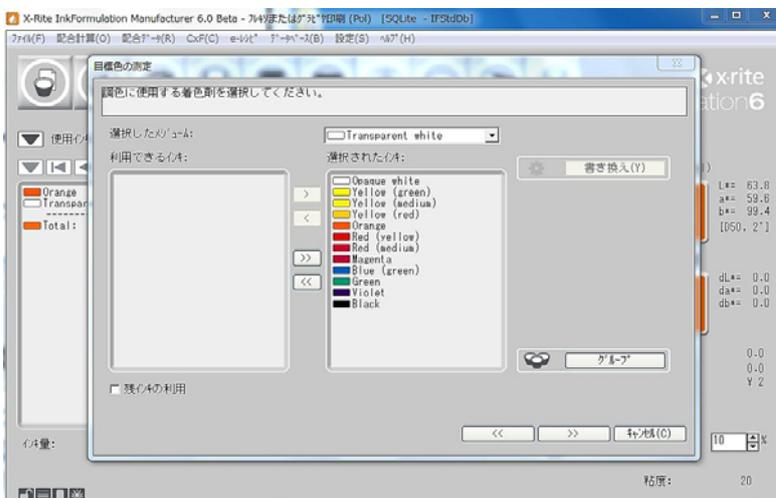
1. [配合：目標色の測定] → [取得] をクリックします。[目標色の測定] → [取得] ウィンドウが表示されます。
2. 目標色を測定します。本書のエクササイズには、ColorNet からリファレンスを読み込むだけで十分です。[ColorNet] をクリックします。



3. [InkFormulation] → [デフォルト] → [Flexo/gravure printing incl. colorants elements (D65, Leneta)] から、[55.0% Orange] を選択します。
4. [選択] をクリックし、色を読み込みます。



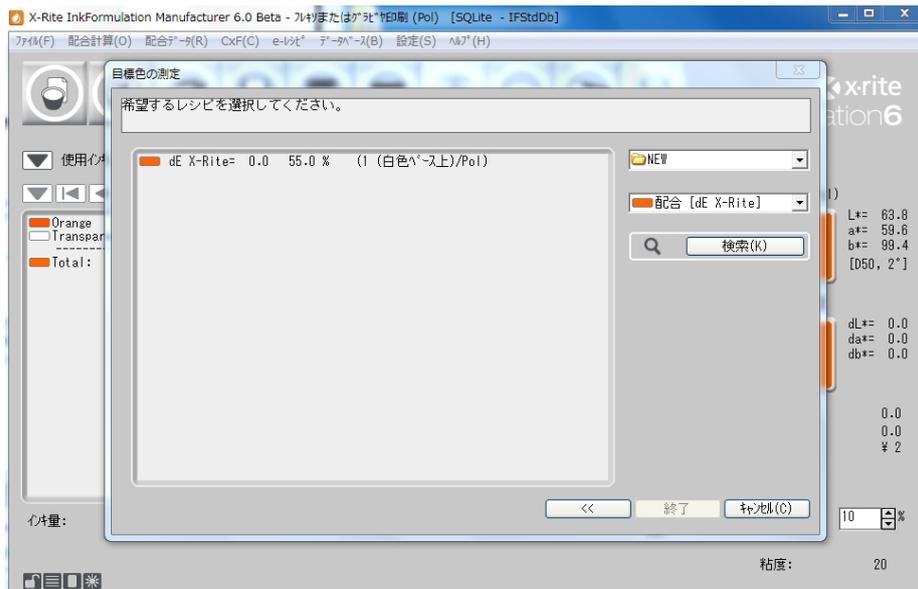
5. [配合] ウィンドウが表示されます。このウィンドウで色材の選択を制限し、望ましくない色材を配合から排除することが可能です。[次へ (>>)] をクリックし、続行します。



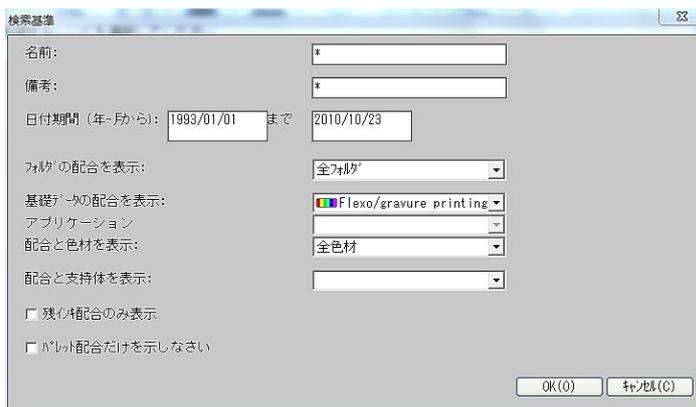
6. プログラムは配合データベースに変換し、全ての既存の配合を表示します。  
リストには最少の色差（最少 $\Delta E^*$ ）から順に表示されています。

指定された配合は目標色に一致します。プログラムは 2000 の $\Delta E^*0.0$  に応じて計算します。

7. [検索] をクリックします。



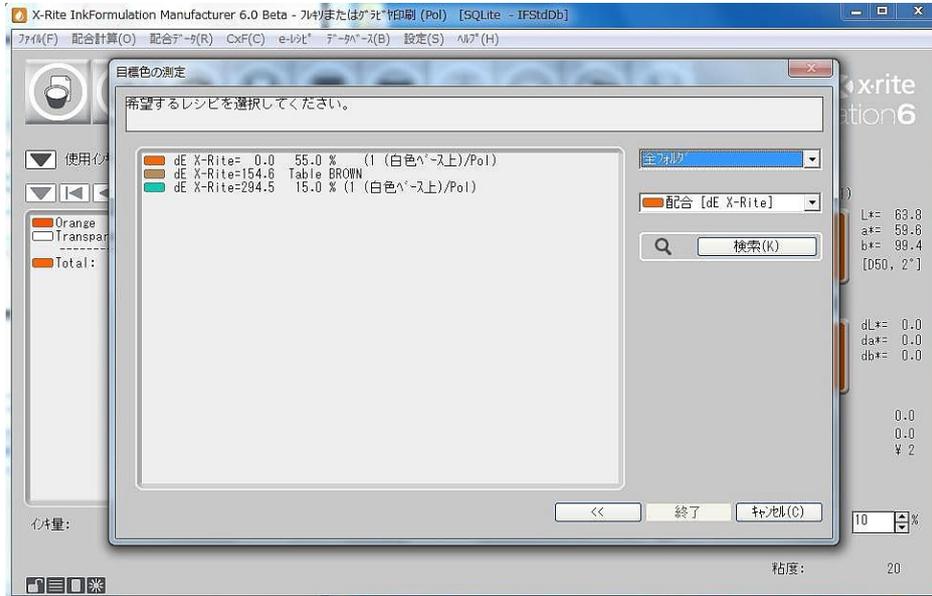
8. フォルダの配合表示リストから [全フォルダ] を選択します。



注記：[検索条件] のウィンドウで検索する範囲を制限/拡大することができます。

- 現在のフォルダの配合
- 現基礎データ/全基礎データに対する全フォルダの配合
- 含まれる色材だけによる配合（1つの基礎データに制限）
- 支持体に関連する配合
- 残インキおよび基本配合のみ

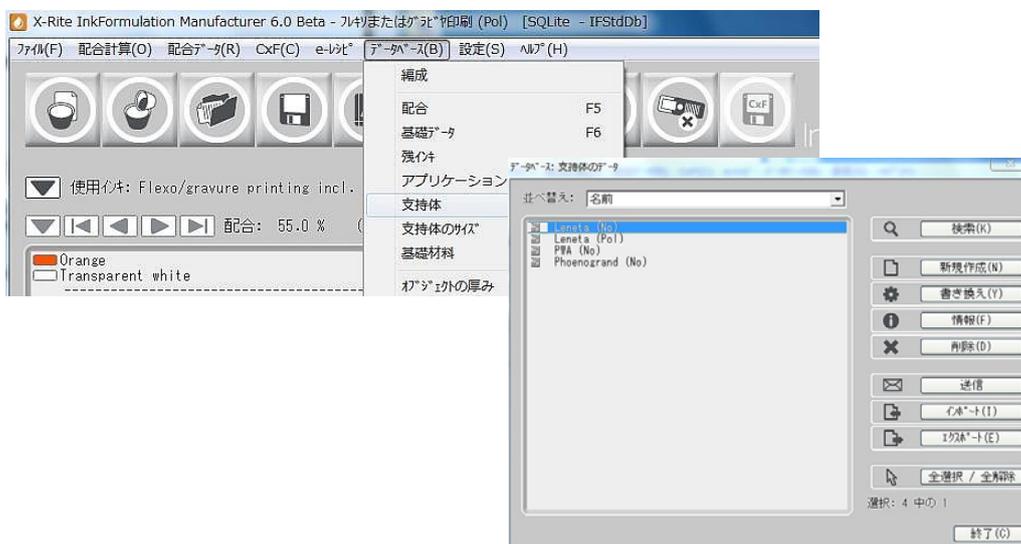
9. 検索条件が増えたため、全てのフォルダからいくつかの配合が表示されています。[キャンセル] をクリックし、ウィンドウを閉じます。



## 支持体の作成

決まった支持体を頻繁に使用する場合は、データベースに保存することが可能です。  
毎回測定を行わずに、データベースから配合プロセスを読み込むことができます。

1. [データベース：支持体] をクリックします。[データベース：支持体] ウィンドウが表示されます。
2. [新規作成] をクリックします。

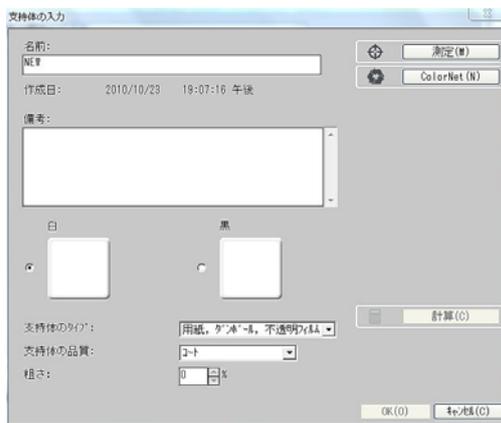


3. [Own substrate] を指定フィールドに入力してください。

名前の他に、支持体のタイプや品質、さらには粗さ（上質紙の支持体のみ）の情報も指定することができます。

4. [支持体の品質] リストに [コート] を選択します。

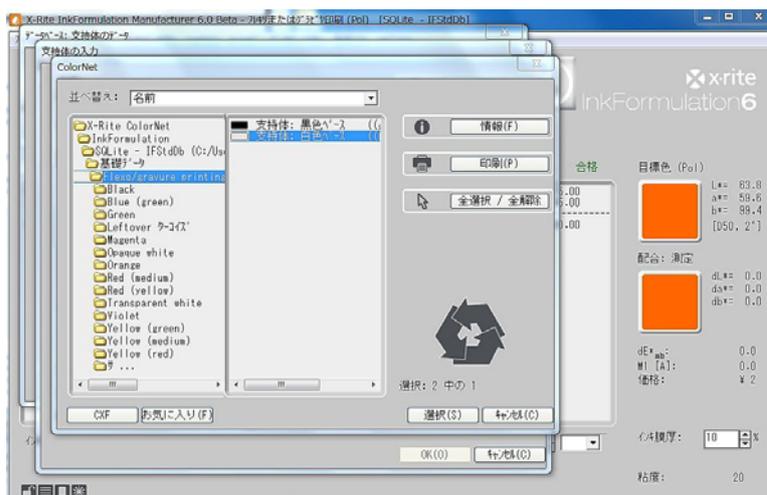
5. 実際の使用においては支持体を測定します。本書のエクササイズでは、ColorNet から支持体を読み込みます。[ColorNet] をクリックします。



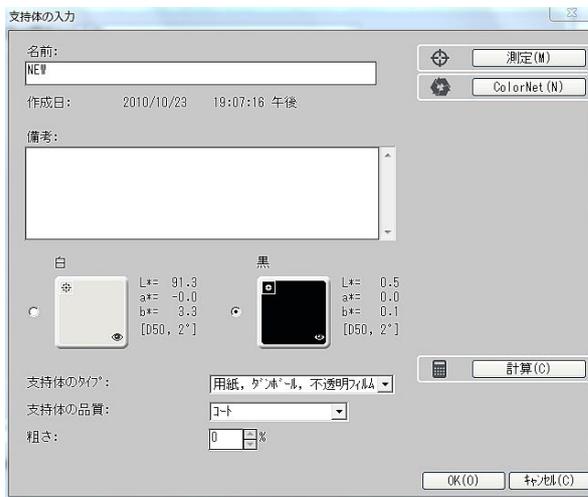
6. [InkFormulation] → [デフォルト] → [基礎データ] → [Flexo/gravure printing incl. colorants elements (D65, Leneta)] から、[支持体：白色ベース] を選択します。

7. [選択] をクリックし、支持体を [Own Substrate] に読み込みます。

8. 黒色支持体上の測定には、このプロセスを繰り返してください。



9. 支持体の入力に [OK] をクリックして終了します。



新規支持体が他の支持体と共にリストに表示されます。ウィンドウを閉じると、支持体の測定は完了します。

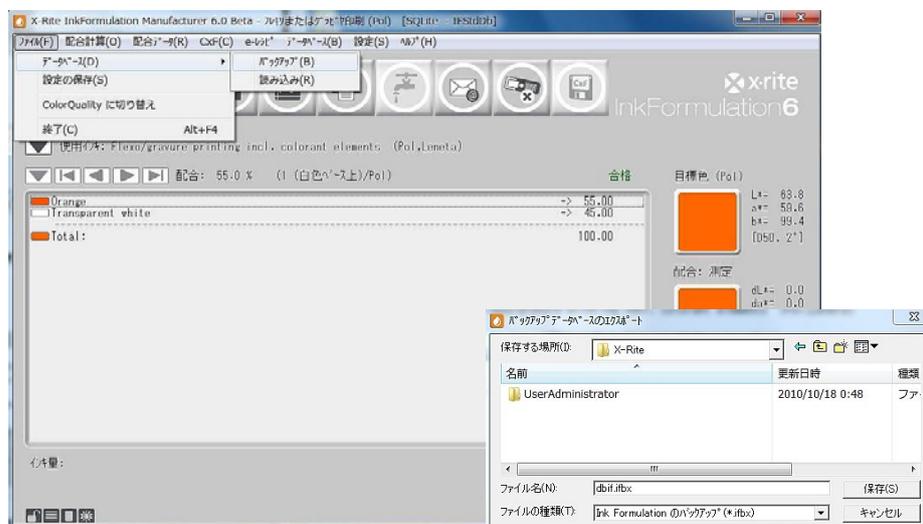
今後の参照用として支持体の情報がデータベースに使用可能になったら、[データベースから支持体を選択] で希望する支持体を選択することが可能です。



注記：保存された支持体は、使用する支持体と同じ値を保証する必要があります。使用する支持体の品質に変動がある場合は、印刷する支持体を毎回測定してください。そうでない場合、配合に対する不正確な情報が生じる恐れがあります。

## データベースのバックアップ

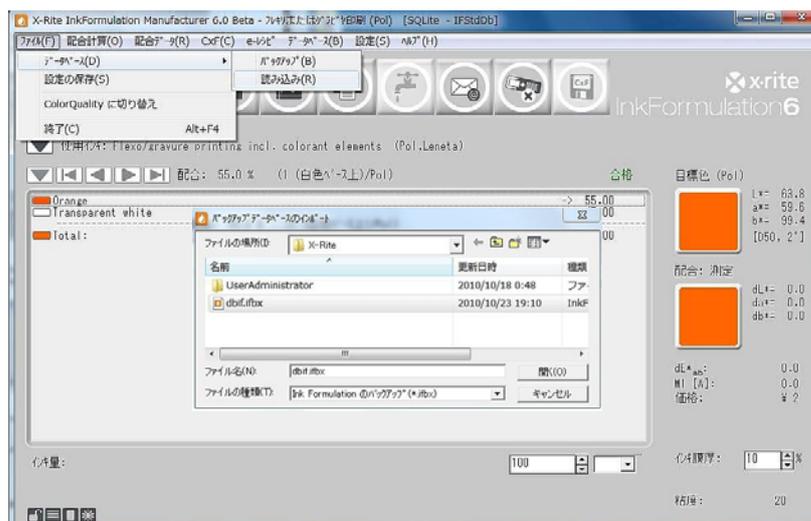
1. [ファイル：データベース：バックアップ] をクリックします。バックアップデータベースの書き出しウィンドウが表示されます。
2. このエクササイズでは、デスクトップに作成します。バックアップにはデフォルト名「dbif.ifbx」をご使用ください。
3. [保存] をクリックします。全データ（配合、基礎データ、支持体など）が1つのファイルに保存されます。



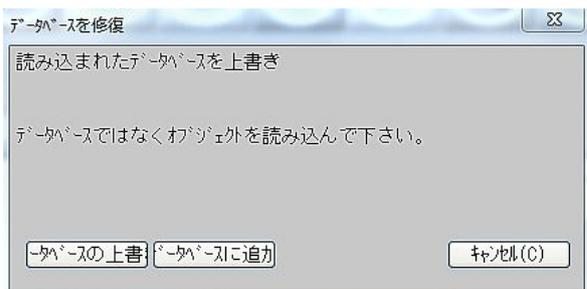
注記：通常は、条件に応じてバックアップ名を作成することができます。安全性を維持するために、バックアップファイルは外部の場所や、バックアップが定期的に行われるネットワークドライブに保存してください。バックアップは定期的（毎週など）に行ってください。

## データベースの修復

1. [ファイル：データベース：修復] をクリックします。バックアップデータベースの読み込みウィンドウが表示されます。
2. 保存したばかりのバックアップ (dbif.ifbx) をハイライト表示し、[開く] をクリックします。



3. [データベースを修復] ウィンドウで [データベースの上書き] を選択します。上書きの警告メッセージを確認し、[OK] をクリックします。



注記：[データベースの上書き] は既存のデータベースを上書きする時のみに選択してください。

[データベースに追加] のオプションは、最終バックアップ以降の新規データを既存データに追加します。既存データは変更されません。

**エクササイズはこれで終わりです。**

次のページでは全般の設定について説明しています。

## 設定：全般

### 1. [設定：全般] をクリックします。

- a. 観察光源および観察者視野角の変更が可能です。フィルタオプションは、新しい基礎データを作成する際に決定されます。作成された基礎データに応じて、フィルタに自動的に適用されます。
- b. カラースケール：ここでは [CIE-Lab] と [CIE-LCh] を切り替えることができます。値はメインウィンドウに表示されます。
- c. メタメリズム用の照明：上記で表記された設定で、メタメリズムは [warm] (yellowish [A]) および [cold] (bluish [UV の一部と F11]) に表示されています。これは通常の設定です。
- d. 平均測定：同種のインキ塗膜には 1 回の測定で十分です。インキ塗膜が壊れていたり不安定であれば、2、3 回以上の測定を実行してください。

### 2. [キャンセル] をクリックし、設定変更を保存せずにウィンドウを終了するか、または [OK] をクリックし、ウィンドウを終了および設定変更を保存します。



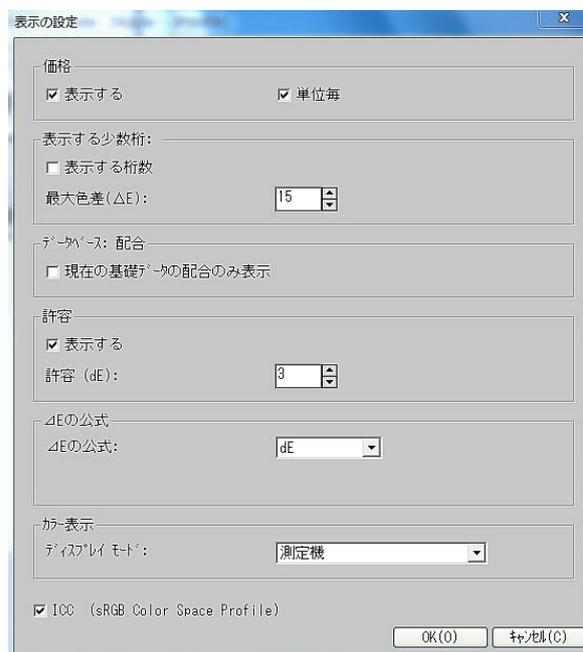
## 設定：配合計算

1. [設定：配合計算] をクリックします。
  - a. 新配合：[追加量加算] モードでは、補正量がメインメニューの 2 列目に表示されます。[ベーシックな配合モード] では、補正量が基本配合量に即座に追加されます。
  - b. 配合出力：使用可能なオプションは印刷プロセスとインストールされたモジュールによって異なります。例：[印刷用インキ]、[基礎材料]
  - c. 不透明度：[なし（カラーの最適化のみ）] が通常の設定です。他の設定を使用する必要があるのは、一部のまたは完全に不透明度な色、および白色と黒色ベースで作成された関連基礎データです。
  - d. インキ膜厚（インキのキャリブレーション = 100%）：キャリブレーションのパーセンテージと実際の印刷プロセスにインキ膜厚に差がある場合、パーセンテージの値を調整することができます。
  - e. さらに配合プロセスのいくつかの手順を OFF にすることができます。例えば、[インキの選択] ウィンドウを無効に設定します。
2. [キャンセル] をクリックし、設定変更を保存せずにウィンドウを終了するか、または [OK] をクリックし、ウィンドウを終了および設定変更を保存します。



## 設定：表示

1. [設定：表示] をクリックします。
  - a. 配合出力：[表示する少数桁] は、メインウィンドウおよび印刷する配合に使用する少数桁数を定義します。[最大色差] は、配合が表示される最大の色差範囲を指定します。
  - b. データベース：配合：このオプションが有効に設定されると、現基礎データのみが配合データベースに表示されます。
  - c. 許容：この設定は色差 ( $\Delta E$ ) の許容範囲を変更します。色空間の表示では、この許容範囲がグレーの円形で表示されています。
  - d.  $\Delta E$ \*計算式：使用する  $\Delta E$ \*計算式を選択します。
2. [キャンセル] をクリックし、設定変更を保存せずにウィンドウを終了するか、または [OK] をクリックし、ウィンドウを終了および設定変更を保存します。



## 設定：外部計量器

このウィンドウで、外部計量器の接続を定義します。

1. [設定：外部計量器] をクリックします。



2. [利用できる外部計量器] から [Universal Batching System] を選択し、右向き矢印 (>) をクリックします。
3. システムをハイライト表示し、[書き換え] をクリックします。
4. このウィンドウでは、配合の出力と成分の順序を変更します。
5. [設定] をクリックします。



6. 配合のアウトプット先を指定してください。



7. [キャンセル] をクリックし、設定を変更せずにウィンドウを閉じます。

## 設定：SPM

この設定ウィンドウで、接続された測定装置の検索およびキャリブレーションを行います。また、シリアルインターフェース（COM）を選択したり、ボーレートを設定します。ウィンドウ下部に接続装置の情報（シリアルナンバー、ソフトウェアのバージョン）が表示されます。

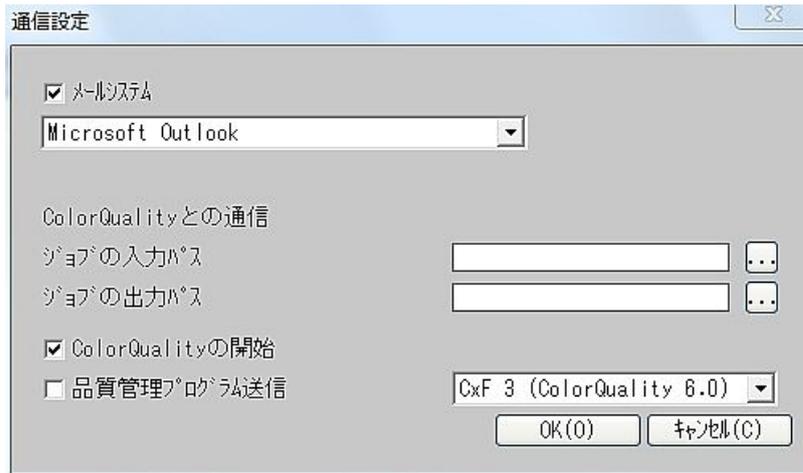
1. [設定：SPM] をクリックします。
2. [終了] をクリックしてウィンドウを終了します。



注記：X-Rite だけでなく、他社製装置もサポートされています。装置名はウィンドウに選択されています。

## 設定：通信設定

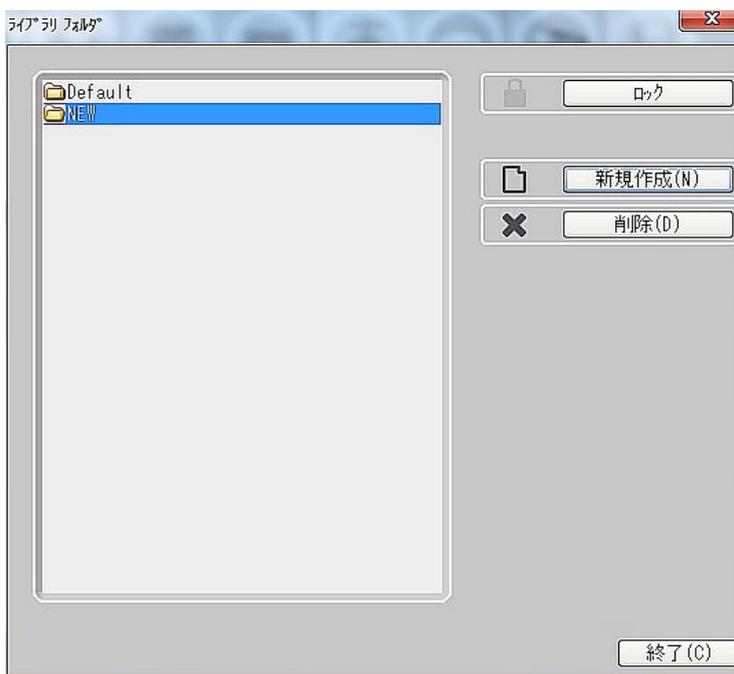
このウィンドウで、InkFormulation を ColorQuality に接続します。送信データの入力および出力パスを定義することもできます。



## 設定：ライブラリフォルダ

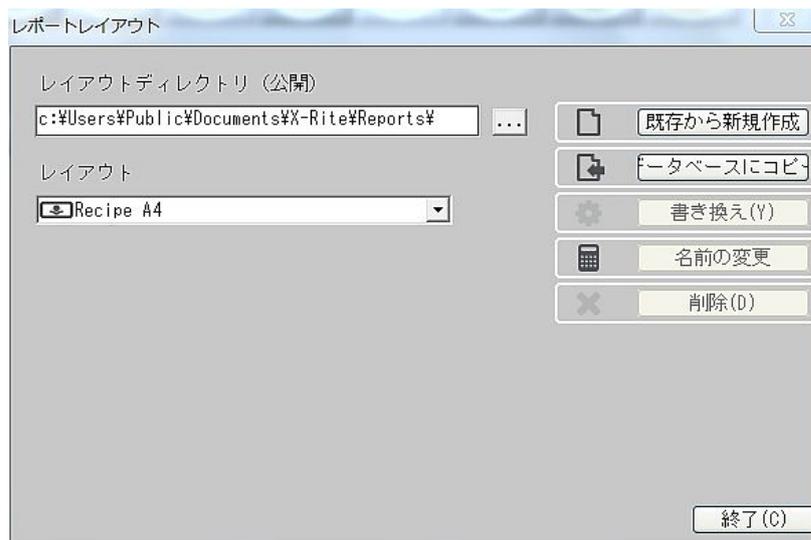
このウィンドウで、配合フォルダを書込み禁止にすることができます。これで、保護されたフォルダに配合を誤って保存することを防ぎます。

1. 配合フォルダをハイライト表示します。
2. [ロック] をクリックします。ボタンが [アンロック] に変わり、フォルダが赤の鍵のアイコンで表記されます。



## 設定：プリンタの設定

このウィンドウで、印刷レイアウトを作成、編集、削除します。  
レイアウトのディレクトリを定義することも可能です。



注記：より詳しい情報はオンラインヘルプまたはユーザーガイドをご参照ください。

## 設定：ワークフロー

設定ワークフローウィンドウでは、配合ウィザードの各ウィンドウを無効に設定することができます。常に同じ厚さ、分類条件、インキが使用される場合は、これらのウィンドウを無効に設定できます。

パレット配合：チェックボックスにチェックを入れて、配合モードを切り替えます。

